

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察特殊報（第 1 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 27 年度 病害虫発生予察特殊報（第 1 号）

平成 27 年 11 月 20 日

愛 媛 県

病害虫名 ヨツモンカメノコハムシ (*Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg))

作物 サツマイモ

特殊報の内容 愛媛県における発生及びサツマイモの葉の食害を初確認

1 発生地域 愛南町

2 発生経過

2015年9月に、南宇和郡愛南町においてノアサガオの葉を食害するヨツモンカメノコハムシの発生情報が寄せられ、現地を調査した結果、ノアサガオ周辺のサツマイモにおいても同様のハムシの発生及び葉の食害を確認した。

捕獲した個体を愛媛大学農学部吉富准教授に同定依頼した結果、ヨツモンカメノコハムシであることを確認し、本県におけるサツマイモでの発生と葉の被害が初めて確認された。

本種は、主に沖縄本島以南の熱帯～亜熱帯に分布し、サツマイモに被害を及ぼす。1999年に長崎県で確認されて以降、鹿児島県（2002年）、宮崎県（2008年）のほか静岡県（2009年）、東京都（2012年）で発生及び被害等が確認されている。

3 形態

成虫は扁平な楕円形で、体長7.5～9.0mm。体の中央部はやや艶のある茶褐色で周縁部は半透明で黄褐色。鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある（写真1）。

幼虫は扁平な紡錘型で、周囲体側にトゲ（樹枝）状突起を有し、脱皮殻や糞を背面に背負うように付ける（写真2）。

卵は4mm内外の楕円形の膜に包まれる（写真3）。

4 生態と被害

ノアサガオやサツマイモなど「ヒルガオ科」の葉のみを食害し、サツマイモのイモ自体は食害しない。

葉の食害痕はチョウ目害虫の初期の食害痕と類似している。成虫・幼虫ともに展開葉を食害し、葉脈間に数mm～1cmの円形～不定形の穴を開ける（写真4）。

なお、他都県では、葉脈のみを残す激しい食害を受けた被害葉が確認されている。また、本県での越冬形態は未調査であるが、南西諸島では成虫で越冬するとされる。

5 防除対策

(越冬対策)

ノアサガオが有力な越冬場所と考えられるため、サツマイモのほ場周辺にあるノアサガオは除去処分する。

(薬剤防除)

発生初期に登録農薬のスミチオン乳剤1,000倍（収穫7日前まで、5回以内）、コテツフロアブル2,000～4,000倍（収穫前日まで、2回以内）、アクセルフロアブル1,000～2,000倍（収穫前日まで、3回以内）を丁寧に散布する。



写真1 成虫



写真2 幼虫

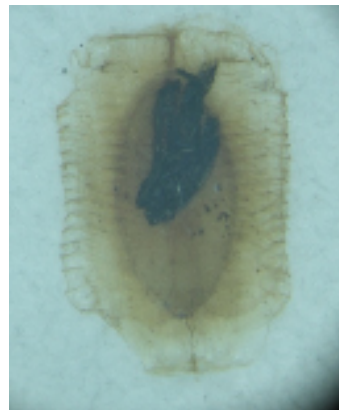


写真3 卵



写真4 サツマイモ葉の被害（葉脈間が円形～不定形に食害される）